

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究 B(海外学術調査)

研究期間：2008 年度～2011 年度

課題番号：20402003

研究課題名（和文） グローバル化時代の東南アジアにおける地方政治の新展開—首都、エネルギー、国境

研究課題名（英文） New Development of Southeast Asian Local Politics in the Era of Globalization: Capital City, Energy and the Border

研究代表者 岡本 正明(Okamoto Masaaki)

京都大学・東南アジア研究所・准教授

研究者番号：90372549

研究成果の概要（和文）：冷戦崩壊後のアジア経済危機を克服した東南アジア諸国は今、グローバルなビジネス・ネットワークやイデオロギー・ネットワークの展開・拡大により急速な社会・政治・経済変容を遂げている。本研究で明らかになったのは、東南アジアの地方レベルで新しい政治経済アクター、或いは新しい政治スタイルを活用する政治アクターが台頭してきていることである。タイ、フィリピン、インドネシアでは、地方分権化が進展して地方首長の権限が拡大したことで、彼らはグローバル化、情報化の時代の中で獲得した新しい政治経済的リソース（情報も含む）を武器にして新しい、よりスマートな権力掌握・維持のスタイルを作り上げてきている。

研究成果の概要（英文）：Southeast Asian countries have overcome the post-cold war Asian economic crisis in 1997 and have been experiencing the rapid social, political and economic transformation with the expansion of global business and/or ideological networks. One thing that is clear from this research is the fact that Southeast Asian local level has seen the emergence of new type of politico-economic actors or the political actors that employ new political style. It is especially true for newly decentralized Thailand, the Philippines and Indonesia where the local heads have obtained a wider authority. The era of globalization and information gave them chances of gaining new political and economic resources including information and fashioning new and smarter way of grabbing and maintaining their political power.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
平成 21 年度	2,300,000	690,000	2,990,000
平成 22 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
平成 23 年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：社会科学 A・地域研究

キーワード：東南アジア、地方政治、地域研究、エネルギー作物、グローバル化、都市政治

1. 研究開始当初の背景

フィリピン、タイ、インドネシアを中心に東南アジアの地方政治研究は進んでいる（例えば、フィリピン：McCoy ed. 1993, Sidel 1999, Abinales 2000, Kawanaka 2002、タイ：玉田 1987, Ockey 1992, McVey ed.

2001、インドネシア：Nordholt and van Klinken eds. 2007）。数多くの各国別研究はこうした三国を含めて存在するものの、比較の観点から東南アジアの地方政治を見渡して詳細に分析する試みはほぼ皆無であった（例外は選挙政治の重要性に注目した Sidel

2006)。しかし、東南アジア諸国の大半が植民地経験を経て独立国家となったこと、冷戦期には、社会主義国家の党国家体制、資本主義国家の権威主義体制という違いはあるにせよ、中央集権的な体制を東南アジア諸国が選択したことがあるなど、多くの類似点を抱えている。さらに冷戦崩壊後の現在、グローバルな資本主義の波は政治体制の違いを超えて東南アジアの地方政治構造を強く規定している。そうしたことから、グローバル化の影響の強い首都圏、エネルギー作物地帯、国境地帯の地方政治を比較研究することにした。

2. 研究の目的

冷戦崩壊後のアジア経済危機を克服した東南アジア諸国は今、グローバルなビジネス・ネットワークやイデオロギー・ネットワークの展開・拡大により急速な社会・政治・経済変容を遂げている。本研究は、こうしたネットワークの東南アジアの地方政治への影響を分析し、政治体制の違いを超えて地方政治が同質化しつつあるのかどうかを検証することを目的とする。

3. 研究の方法

最も重視したのは共同調査である。日本側の研究者も現地の研究協力者も基本的に一国を中心とした研究をしてきており、同じ東南アジア研究でありながら、別の東南アジア諸国で集中的に調査した経験が少なかった。ジャカルタであればインドネシアに精通した研究者がフィリピンやタイ研究をしている研究者をサポートするような形で共同調査を行った。予算の都合から、最も理想的にそうした共同調査が行えたのは、首都班であり、フィリピンのマニラ、タイのバンコク、インドネシアのジャカルタで極めて有効な調査を実施できた。

また、日本学術振興会アジア拠点事業の主題の一つと共通性が高かったことから、この首都の地方政治については海外の研究者も招いてワークショップを実施できたことも大きな意味があった。

エネルギー作物班については、林田科研などと共同で遂行した月例のアブラヤシ研究会が極めて貴重な研究推進、情報交換の場として機能した。

4. 研究成果

本研究で明らかになったのは、東南アジアの地方レベルで新しい政治経済アクター、或いは新しい政治スタイルを活用する政治アクターが台頭してきていることである。タイ、フィリピン、インドネシアでは、地方分権化が進展して地方首長の権限が拡大したことで、彼らはグローバル化、情報化の時代の中

で獲得した新しい政治経済的リソース（情報も含む）を武器にして新しい権力掌握・維持のスタイルを作り上げてきている。

こうした権力掌握・維持のスタイルの同質性をもたらした理由は、仮説としては、首都については、サスキア・サッセンが言うようなグローバル化に伴うメトロポリタンの構造・役割変化にもある。しかし、バンコク、マニラ、ジャカルタという3つの首都での共同調査を踏まえると、それと同時に冷戦の崩壊後に東南アジアを襲った民主化、分権化の影響が大きいことも痛感した。グローバル化の影響といっても、政治権力に関係する場合、新制度論的に考えるまでもなく、その影響が具体的にどのようなポリティクスを作り上げるのかは民主的・分権的体制の違いによるところが大きい。そして、タイ、フィリピン、インドネシアでは首都における制度設計はかなり異なっている。それゆえ、将来的にはこの制度設計を歴史的に詳細に分析していく必要性を痛感した。

非常に興味深かったのは、とりわけバンコクとジャカルタについては、国政の中心であるだけでもっばらナショナルな政治の分析対象になっており、バンコクの地方政治やジャカルタの地方政治といった形での研究が国際的にも非常に少ないことである。例えば、インドネシアで考えれば、民主化、更に分権化により、非常に多くの地方政治に関する事例研究が誕生した。しかし、ジャカルタの地方政治、例えば首長選挙に関する研究はほぼ皆無に等しい状況である。それは実はこの科研が終わった今でもさして変わっていない。それゆえ、国際学会や国内学会での分科会、学術雑誌の特集号として本研究の成果を公表することが出来れば、非常にインパクトがあると確信した。

エネルギー作物地帯については、もっばらインドネシアのアブラヤシ栽培地帯に関する学際的研究が中心となった。そのため、各国比較の要素が弱くなり、インドネシア国内の比較から同質性を見出す傾向が強くなってしまった。地方政治との兼ね合いで重要なことは、まず、経済的に何のメリットもない辺境地であっても、アブラヤシ栽培が始まることで大きな社会経済変容がもたらされている点である。辺境地にアブラヤシで財を成した中産階級さえ生まれつつある。加えて、中央政府が経済的に自立可能という判断を下して、あるアブラヤシ栽培地が1つの自治体に生まれ変わるという現象がインドネシアのカリマンタンなどでは生まれてきている。

2 つ目に重要なことは、先住民などからの土地の収奪、森林破壊が深刻な問題となり、人権 NGO、環境 NGO などが強い批判を浴びせており、農園企業、中央・地方政府との

対立が起き、暴力事件が起きている一方で、アブラヤシ農園の利権をめぐる地方政治の暴力化といった事態はあまり起きていない点である。アブラヤシ農園が広がる地方の首長直接選挙を見ても、農園企業は有力な候補全員を支持することでリスク回避を図っている傾向がある。また、農園企業としては、インドネシアには農園拡大の適地、フロンティアが未だに残っており、政治的コネなどを通じて他のビジネスアクターから農園を奪い取るよりは、そのフロンティアでビジネス拡大を図ったほうが低コストで済むと判断しているためと思われる。

3つ目に長期的に重要なことは小農、独立農民の意味である。空前のアブラヤシ・ブームとなるなかで、農園企業の農園所有面積よりも小農や独立農民が所有するアブラヤシ農地の面積のほうが急拡大している。その政治的意味については、まだはっきりわからない。東南アジアの島嶼部と大陸部の農業を比較した時に、大陸部では大規模農園がうまくいわずに小農経営が主体になることが多く、島嶼部では大農園が発展してきたという指摘がある。しかし、現在のインドネシアで進行している小農、独立農民のアブラヤシ農地拡大という事実は、島嶼部農業の大陸部化とも言える現象であり、タイのアカシア栽培地帯での地方政治などと比較検討することで今後のインドネシアのアブラヤシ農園地帯での地方政治についての示唆を得られる可能性が高いと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 31 件)

- ①生方史数、レトノ・クスマニンテヤス、嶋村鉄也、市場作物の浸透が樹園地作物の多様性と蓄積に与えた影響—インドネシア、ランブン州の事例、森林応用研究、査読有、掲載決定済
- ②見市建、変わるインドネシアのイスラーム地図、地域研究、査読有、12-1、2012、159-173
- ③岡本正明、Satpol PP という貧困層の敵、NINJA ニュースレター、125 号、査読無、2011、6-10
- ④水野広祐、インドネシアの泥炭湿地林消失と持続的発展、東亜、No.530、査読無、2011、10-11
- ⑤岡本正明、インドネシアのイスラーム主義政党、福祉正義党の包括政党化戦略、イスラーム地域研究、4 巻 1-2 号、査読有、2011、289-313
- ⑥生方史数、制度の理念的設計・自生的進化とその整合化:タイの共有林管理の事例か

ら、社会と倫理、24 号、査読有、2010、31-47

- ⑦Ubukata, Fumikazu、The ecentralization or Centralization? The CBNRM Policy and Its Local Impacts in Thailand、Proceedings of The 2010 International Conference on Community Forestry、査読無、2010、60-72
 - ⑧岡本正明、細分化する地域主義と中道化・均衡化する地方政治、アジア研ワールド・トレンド 7 月号、154 号、査読無、2008、19-21
 - ⑨Okamoto Masaaki、An Unholy Alliance: Political Thugs and Political Islam Work Together、Inside Indonesia、93、査読無、2008、Online Journal
 - ⑩Okamoto Masaaki、Jawara in Power、1998-2007、Indonesia、86、査読有、2008、109-138
 - ⑪Mizuno Kosuke、From Colonial Studies to Sustainable Humankind: Japanese Studies on Rural Southeast Asia、Asia-Pacific Forum、40、査読有、2008、1-20
 - ⑫水野廣祐、村落行政はどうか変わったか—インドネシア的村落民主主義の再生、アジア研ワールド・トレンド、154 号、査読無、2008、22-24
 - ⑬本名純、平和な時代の国軍改革、アジア研ワールド・トレンド、154 号、査読無、2008、13-15
 - ⑭Jun Honna、Instrumentalizing Pressures, Reinventing Mission: Indonesian Navy Battles for Turf in the Age of Reformasi、Indonesia、86、査読有、2008、63-80
 - ⑮Patricio N. Abinales、Fragments of History, Silhouettes of Resurgence: Student Radicalism in the Early Years of the Marcos Dictatorship、東南アジア研究、第 46 巻第 2 号、2008、175-199
- [学会発表] (計 111 件)
- ①Okamoto Masaaki、Forest or Not? Contentious Discourse on Expansive Oil Palm Plantation in Southeast Asia、Harvard Yenching Seminar and HKS Indonesia Program Brown Bag Seminar、Harvard Yenching Institute、2012.3.30
 - ②Okamoto Masaaki、“Real Politik” of an Islamist Party, PKS in the Democratized Indonesia: 98-09、Seminar: Islam and Democracy: Two Expressions of Islam in Contemporary Indonesia、Harvard Kennedy School、2011.10.20
 - ③岡本正明、ポスト・スハルト期の安定化の政治: 地方政治に着目して、比較政治学会

- 第 14 回研究大会、北海道大学、2011.6.18
- ④ Okamoto Masaaki、Discourses for/against Oil Palm Plantation Expansion in Indonesia、第 19 回アブラヤシ研究会、稲盛記念財団記念館第 1 小会議室、2011.6.4
- ⑤ Okamoto Masaaki、The “Invention” of Parties and Candidates: The Ad Business and Image Politics in the Democratized Indonesia、AAS/ICAS Conference、Hawai'i Convention Center、2011.4.2
- ⑥ Mizuno Kosuke、Global Imbalance and East Asian Growth Model Revisited -Twelve Years' Change since Economic Crisis in 1997 and Alternative Model、CAPAS-CSEAS Workshop for Young Scholars of Southeast Asian Area Studies Exploring Frontiers of Southeast Asian Area Studies: Asian Perspective、2011.8.9、CAPAS-SINICA、Taipei
- ⑦ Mizuno Kosuke、Socioeconomic challenges for sustainable management of a tropical peatland ecosystem、International Workshop on “Sustainable Management Of Bio-resources in Tropical Peatland Ecosystem、Research Center for Biology、Cibinong Science Center-LIPI、Indonesia、2011.7.19
- ⑧ Honna Jun、Maritime Crimes in Southeast Asia: Human Securitized the Policy Paradigm、International conference, “The Nexus of Security and Development: Addressing Local Conflicts before They Turn Global—Japan-EU Cooperation,” organized by the Konrad Adenauer Stiftung (KAS), the European Japan Advanced Research Network (EJARN), and Japan International Cooperation Agency (JICA)、2012.2.21、JICA-Research Institute
- ⑨ 本名純、東南アジア諸国の概況と日本の警察の国際支援—越境犯罪の実態から考える、警察大学校セミナー、2011.5.17、警察大学校
- ⑩ 生方史数、プランテーション開発からみた熱帯アジア社会—環境・社会との共存への見通し、第 22 回国際開発学会全国大会、2011.11.26、名古屋大学
- ⑪ 見市建、イスラーム運動研究における国家と地域性、東南アジア学会、2011.12.4、東海大学
- ⑫ Kusaka Wataru、Pitfalls of Moral Politics in the Post-Marcos Philippine: Moral Division of the Nation and Moral Nationalism、AAS/ICAS Conference、2011.4.2、Hawai'i Convention Center
- ⑬ Okamoto, Masaaki、“Invisible” and Dysfunctioning City Assemblies (Dewan Kota) in the Metropolitan Jakarta: Intriguing Lack of Institutional Democracy in Indonesia、JSPS Asian Core-Program Seminar: Local Politics and Social Cleavages in Transforming Asia、Kyoto University、2010.12.7
- ⑭ Okamoto, Masaaki、The Political Economy of Oil Palm Plantation: Expansion Policy in Indonesia and Its Justification、The 34th Southeast Asia Seminar on New Concept Building for Sustainable Humanosphere and Society from the Equatorial Zone of Southeast Asia、Indonesian Institute of Sciences、Indonesia、2010.9.22
- ⑮ 生方史数、生産関係から地域をみる：東南アジアのパルプ産業とその原料基盤、第 10 回アブラヤシ研究会、2010.6.19、京都大学
- ⑯ 本名純、民主化インドネシアにおける政治とアンダーグラウンド—暴力の外注化・国家の犯罪化・コンフリクトの産業化、グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」セミナー、2010.5.7、大阪大学
- ⑰ Honna, Jun、Jakarta's Outlaws Today: Changing Markets, Discourses and Actors、JSPS Asian Core-Program Seminar: Local Politics and Social Cleavages in Transforming Asia、2010.12.8、Kyoto University
- ⑱ Mizuno, Kosuke、Peat Land Restoration at Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau and Potentiality of REDD program、The Meeting of the Participating Organizations for 2010 JST-JICA Project Proposal、2010.8.3、Indonesian Institute of Science、Indonesia
- ⑲ 日下渉、『ピープル』vs『大衆』—フィリピン大統領選挙における 2 つのポピュリズム、アジア政経学会東日本大会、2010.5.22、北海道大学
- ⑳ Miichi Ken、Democratization and ‘Failure’ of Islamic Parties in Indonesia、Workshop on Islam and Development in Southeast Asia: Southeast Asian Muslim Responses to Globalization、2010.7.26、JICA Research Institute
- ㉑ Patricio N. Abinales、The Local in Philippine History、the Center for Philippine Studies/Asian Studies

- Program, School of Asian and Pacific Studies, University of Hawaii, 2010.10.22, University of Hawaii
- ②岡本正明、上と下からのローカリズム：民主化時代のインドネシア国家統合プロジェクト、シンポジウム「東南アジアとヨーロッパのリージョナリズム—関連地域研究の試み」、2009.11.1、東京大学
- ③岡本正明、アブラヤシ・プランテーションの拡大政策とその正当化のロジック、International Workshop on Non-traditional Security Issues in Asia, 2010.3.19、政策研究大学院大学
- ④Jun Honna、Global Crime, Regional Security, and Domestic Politics: 'War on Drugs' in Indonesia, 1st Joint Symposium of Korean Association of Southeast Asian Studies (KASEAS) and Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University, 2009.6.20、晋州大学（韓国）
- ⑤Ubukata, Fumikazu、Formal/Informal Gap as a Factor in 'Green' Environmental Issues, International Conference, International Environmental Treaties: their Role, their Possibilities, their Risks and Limitations, 2010.9.16、南山大学
- ⑥生方史数、CBNRM と二つのガバナンス、「資源ガバナンスと利害協調」研究会、2010.1.15、JICA 研究所
- ⑦Kosuke Mizuno、Conflict Resolutions in Post-Authoritarian Regime in Indonesia: Institutional Changes and People's Organizations, the First KASEAS/CSEAS Joint International Symposium, Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: the Migration, Investment, and Cultural Flow, 2009.6.20、晋州大学（韓国）
- ⑧Okamoto Masaaki、Populism under Decentralization in post-Suharto Indonesia, The International Symposium on Sulawesi Area Studies "Sulawesi Area Studies in 50 Years: In Search of Its Identity and Local Systems, 2008.10.11、Hasanuddin University
- ⑨Okamoto Masaaki、Unexpected political stabilization under the neo-liberal economy: Indonesia, Linkage of disparities; Reorganization of power and opportunities in the globalized world, 2009.2.21、京都大学
- ⑩見市建、インドネシアの民主化と政治的安定、日本政治学会、2008.10.12、関西学院大学
- ⑪見市建、インドネシアの福祉正義党 (PKS) による「正義」の実践、日本マレーシア研究会、2008.12.6、獨協大学
- ⑫本名純、インドネシア・国軍改革と人事の政治—ユドヨノ政権を中心に、東南アジア学会関西地区例会、2008.3.1、京都大学
- ⑬Ubukata Fumikazu、Changing boarders of the management unit: an effect of decentralization and formalization in communal forest management, Yasothon, Thailand, The 12th Biennial Conference, International Association for the Study of Commons, 2008.7.16、University of Gloucestershire, Cheltenham, England
- 〔図書〕 (計 48 件)
- ①岡本正明、ジェトロ・アジア経済研究所、「逆コースを歩むインドネシアの地方自治：中央政府による「ガバメント」強化への試み」、船津鶴代・永井史男編『東南アジア：変わりゆく地方自治と政治』査読有、2012、275(27-66 頁)
- ②Mizuno Kosuke, Haris Gunawan、UN University Press, Conservation of peat bog and groforestry in Indonesia IN Takamitsu Sawa et al. ed., *Achieving Global Sustainability: Policy Recommendations*、査読有、2012、343(162-174)
- ③本名純、ミネルヴァ書房、「インドネシア—民主化時代のイスラーム政治」、山影進・広瀬崇子編『南部アジア』(世界政治叢書 7)、査読無、2011、306 (95-111)
- ④見市建、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、出版業にみる福祉正義党の『市場戦略』、床呂郁哉・福島康博編『東南アジアのイスラーム』、2011、133-143
- ⑤生方史数、京大出版会、「熱帯アジアの森林管理制度と技術—現地化と普遍化の視点から」、杉原薫・脇村孝平・藤田幸一・田辺明生編『環境・技術・制度の長期ダイナミクス』、印刷中
- ⑥見市建、せりか書房、「東南アジアにおけるイスラーム主義武装闘争派の映像戦略—インドネシアを中心に」、新井一寛・岩谷彩子・葛西賢太編『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』、2011、289(55-70)
- ⑦Honna, Jun, KITLV Press, Orchestrating Transnational Crime: Security Sector Politics as a Trojan Horse for Anti-Reformists, Edward Aspinall and Gerry van Klinken eds., *The State and Illegality in Indonesia*, 2010、261-279
- ⑧Honna, Jun, ANU E-Press, *The Legacy of the New Order Military in Local Politics: West, Central and East Java*,

- Edward Aspinall and Greg Fealy, eds., Soeharto's New Order and its Legacy: Essays in Honor of Harold Crouch、査読有、2010、135-150
- ⑨ Kusaka, Wataru、Anvil Publishing、Governing Informalities of the Urban Poor: Street Vendors and Social Order Making in Metro Manila、Yuko Kasuya and Nathan Quimpo eds. Politics of Change in the Philippines、査読無、2010、362-390
- ⑩ Patricio N. Abinales、Anvil Publishing、National Advocacy and Local Power in the Philippines、Yuko Kasuya and Nathan Gilbert Quimpo, eds The Politics of Change in the Philippines、査読無、2010、391-417
- ⑪ Ota Atsushi, Okamoto Masaaki and Ahmad Suaedy eds., Wahid Institute、Islam in Contention: The Rethinking of Islam and State in Indonesia、2010、x+468p
- ⑫ 本名純・川村晃一編、ジェトロ・アジア経済研究所、インドネシア 2009 年選挙と第 2 期ユドヨノ政権の展望、2010、191
- ⑬ Okamoto Masaaki、Kyoto University Press and NUS Press、Populism under Decentralization in post-Suharto Indonesia、Mizuno Kosuke and Pasuk Pongpaichit eds.、Populism in Asia、査読有、2009、144-164
- ⑭ 本名純、インドネシアにおける「犯罪との戦い」——非国家主体の暴力をめぐる治安機構の政治、年報政治学、2009-II (政治における暴力)、査読有、2009、70-86
- ⑮ 市川昌弘、生方史数、内藤大輔編、人文書院、熱帯アジアの人々と森林管理制度：現場からのガバナンス論、2009、361
- ⑯ 見市建、明石書店、『テロリスト』の来歴——インドネシアにおける武装闘争派の思想と行動、森孝一編『ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか』、2008、82-103
- ⑰ Jun Honna、Routledge、From Dwifungsi to NKRI: Regime Change and Political Activism of the Indonesian Military、Marco Bunte and Andreas Ufen ed., Democratization in Post-Suharto Indonesia、査読有、2008、226-247
- ⑱ Ubukata Fumikazu、CSEAS、Getting Villagers Involved in the System: The Politics, Economics and Ecology of Production Relations in the Thai Pulp Industry、Kyoto Working Papers on Area Studies No.40 (G-COE Series 38)、査読無、2008
- ⑲ Ubukata Fumikazu、Science in Policy Making: the Eucalyptus Debate and Villagers in Thailand、Wil de Jong (ed.), Forest Policies for a Sustainable Humanosphere, CIAS Discussion Paper No.8、査読無、2008、57-63
- ⑳ Patricio N. Abinales、Institute of Southeast Asian Studies、The Philippines: Weak State, Resilient President、Daljit Singh and Tin Maung Maung Than eds. Southeast Asian Affairs 2008、査読有、2008、293-312
- ㉑ Patricio N. Abinales、Kyoto University Press and Trans Pacific Press、Notes on the Disappearing 'Middle' in Post-Authoritarian Philippine Politics、Takashi Shiraiishi and Pasuk Phongpaichit, eds. The Rise of Middle Classes in Southeast Asia、査読有、2008、176-193

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本正明 (Okamoto Masaaki)
京都大学・東南アジア研究所・准教授
研究者番号：90372549

(2) 研究分担者

水野 広祐 (Mizuno Kosuke)
京都大学・東南アジア研究所・教授
研究者番号：30283659

パトリシオ・N・アビナーレス (Patricio N. Abinales)
京都大学・東南アジア研究所・教授
研究者番号：60314627
(H23 年度→ハワイ大学に異動により分担者を外れる)

本名 純 (Honma Jun)

立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：10330010

生方 史数 (Ubukata Fumikazu)

岡山大学・大学院環境学研究科・准教授
研究者番号：30447990

見市 建 (Miichi Ken)

岩手県立大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：10457749

日下 渉 (Kusaka Wataru)

京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：80536950

(H22 年度→分担者として参加)

(3) 連携研究者

相沢 伸広 (Aizawa Nobuhiro)

ジェトロ・アジア経済研究所・研究員
研究者番号：10432080